

# 人もまちも元気にも元気に

## 神園市政 決意の3期目 スタート

任期満了に伴う枕崎市長選挙が1月19日行われ、即日開票の結果、神園征氏が当選しました。

**引き続き、  
よろしくお願ひします**

枕崎市長 神園 征

平成26年1月26日から、自身3期目の市長に就任することになりました。これを書いているのは23日ですが、更なる重責を担わなければならない覚悟は当然できています。

当選証書を正式に受理したのが20日で、25日まではまだ2期目の現職市長という立場ですので、20日からは、その立場での任務の遂行に追われています。

そもそも年度末から年度始めへ向かおうとする最も繁忙を極めるこの時期の市長選挙は、市政にとってはあまり望ましいものではないと思いません。

新年度の基本方針や予算を決める定例議会は、通常3月初旬(場合によっては2月末頃)に開会されますから、その準備は昨年末から始まっていきます。新市長が誕生しますと、当然、新市長の公約や方針がありますので、それまでの準備作業は全て見直さざるを得ないこともあります。一から作業の見直しとなると本格的な予算を組めず、おおよその骨格予算とならざるを得ません。4年に1回とはいえ、過去に何度かそういう事もありました。

1月に市長選挙が行われるようになったのは、昭和29年の市長選挙からです。

第2代目の市長が昭和28年5月に就任し、わずか8カ月後の昭和29年1月に辞任したのです。その理由については、確とはわかりません。市史を開いても理由については全く触れられていません。それらしき説を聞いています。ありますが、今となっては60年以上も前の事ですので、定かではありません。しかし、体調による理由等ではないのは確かのようなのです。

さて、これから先の基本的課題について記します。

よく言われるように、財政状況が厳しいことはそのとお

りです。しかし、私が初めての市長就任後、直ちに財政危機宣言を出した時と比べると危機的状況を脱し、将来への展望に明るい兆しが見えてきたように思います。

枕崎市は、昭和31年から10年間「財政再建団体」でした。

その後、健全化されれば良かったのですが、先に書いたように、私の初の市長就任後直ちに「危機宣言」を出さざるを得ない状況になっていたのです。財政の各指標が全て1、2年で理想的数字に回復するのは極めて難しいことです。しかし、それを目指さなければならぬのも確かです。

財政健全化を目指す私の基本姿勢は、「入るを量りて出づるを制するの外更に術数無し(収入をはかって、それに応じた出費しかない)」という名言の実践です。私だけでなく、市の全職員にもその姿勢を求めています。

誤解しないでください。何にも財政出動をしないというのでは全くありません。知恵を生かした創意工夫を厳しく求めていくという意味です。

今年の仕事始めで、職員に話したもうひとつは、「高野の午睡」という古くからの言葉についてでした。

### 「人とまちの安全、安心、健康」を推進します

- ①良好な自然・生活環境の確保
- ②防災・減災対策
- ③老朽化した公共施設等の改修など、社会基盤の安全性の向上
- ④経済雇用対策=コンテナヤードの整備や企業誘致など地域経済の浮揚や雇用対策
- ⑤健康づくり=市民の主体的な健康づくり
- ⑥教育・福祉施設の充実=地域包括ケアシステムの構築を目指す
- ⑦地域活性化=地域資源の活用などによる観光・交流の推進

昔、高野山には全国各地からいるんな人々が参詣に集まって、ありとあらゆる知識や情報が自由に交換された。だから門前の小僧が昼寝をしていても、最新の情報が耳から入ってくる。そのおかげで高野山では、小僧までどんな学者でも及ばないほどの物知りになったという話です。

高野山へ行けば高僧から生きた知恵や勇気、あるいは救いや教えが与えられた。だからこそ人びとは集まってきた。そういう話です。

つまり私も市の職員たちも自己研鑽を積んで、この話の例に少しでも近づきたいものです。

### 枕崎市長選挙結果

■候補者別得票数		■選挙当日有権者数	
神園 征	6,170票	男 8,664人	女 10,627人
瀬戸口 嘉昭	4,952票	計 19,291人	
清水 和弘	1,751票	■投票者数	
		男 5,631人	女 7,392人
		計 13,023人	
■有効投票数	12,873票	■投票率	
■無効投票数	150票	男 64.99%	女 69.56%
■無効投票率	1.15%	計 67.51%	